

# 穂学



令和5年度

広州日本人学校 学校便り

[No.2]

令和5年5月11日(木)

発行責任者 校長 加藤康徳

## 「子どもたちの笑顔から感じること」

世界的に広がった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが世界を震撼させてから今年で3年が経ちました。この間、学校は教育計画の削減・縮小・変更を余儀なくされ、教育活動は内向きにならざるを得ませんでした。

しかし、本校はこのような「教育のラッピング状態」の中でも教職員が一丸となって「子どもの教育を止めない。」を合言葉に情報を収集し、教育内容の工夫・改善を図り、保護者や教育関係者のご支援やご協力を得ながら、最低限ではありますが子どもの教育活動を保障することができたと考えております。

このように今までに経験したことのない3年間ではありましたが、現在は中国政府による厳格な「ゼロコロナ政策」も見直され、学校はほぼコロナ禍前の環境に戻ることができました。マスクの無い子どもたちの笑顔からも本当に良かったと感じております。

そこで令和5年度は、「ウイズコロナ」「アフターコロナ」を見据え、日本人社会からその価値を認められる学校、今後も持続し続ける学校、そして何よりも子どもが本校とのつながりを未来でも実感できる学校となるために積極的に教育活動を推進し、このグローバル社会を生き抜いていかなければならない子ども達への「豊かな学び」を保障し、このコロナ禍の3年間を踏み台にして、より一層在外教育施設としての使命を果たしていくことにします。

<教育目標> 「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」

<めざす子ども像>

- 自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子・・・「知」
- 自らちがいを認め合い、共に生きていく子・・・「徳」
- 自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子・・・「体」

なお、特に今年度は、

ICT環境を有効に活用した「主体的・対話的で深い学び」のある授業を推進します。



<昼食の様子>



<タブレットの活用>



<1年生を迎える会>



<部活動開始>

「内藤先生が着任しました。」

教諭 内藤 美紀 (1年3組担任)

「本年度より広州日本人学校に着任いたしました。一人一人の良さを大切にし、成長していくことができるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。」